

公益財団法人 にいがた文化の記憶館
平成30年度 事業報告
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

1. 概況

展示事業 30年度は5本の企画展示を開催しました。4月15日に29年度の企画展示「近代詩のパイオニア 堀口大學」が終了し、30年度の企画展示は4月27日からの開催でした。5本のうち2本「子どもと夢の世界」、「日本近代化のパイオニア」は「第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」のイベントとして開催。5本目の「良寛再発見」は全国良寛会および一般財団法人良寛会にご協力いただき、小島正芳副会長の監修による展示となりました。

常設展示では、文化勲章受章者と文化功労者4名のパネルを作成し、追加展示しました。また、7月に小規模のパネル展示「号外 江戸城無血開城 越後人のひ孫＝勝海舟の快挙」を行い、2019年2月に逝去されたドナルド・キーン博士の追悼展示「終戦を促した祖国愛 米軍将校と日本兵捕虜」（2016年10月に開催した企画展示）を2019年3月から開催しました。

30年度の年間入館者総数は3,616人（うち有料1,901人）でした。

平成29年度「近代詩のパイオニア 堀口大學」

平成30年2月23日（金）～4月15日（日） 45日間

うち30年度は4月1日（日）～4月15日（日）13日間で入館者数 143人（うち有料81人）

I. 「子どもと夢の世界～日本のアンデルセン・小川未明、日本童画の父・川上四郎～」

平成30年4月27日（金）～6月24日（日） 54日間

入館者数 867人（うち有料543人）

II. 「佐渡の能楽と世阿弥 吉田東伍の世阿弥発見」

平成30年7月7日（金）～9月2日（日） 50日間

入館者数 641人（うち有料432人）

III. 「日本近代化のパイオニア—前島密・大橋佐平・大橋新太郎・市島謙吉・坪谷善四郎—」

平成30年9月14日（金）～11月11日（日） 51日間

入館者数 691人（うち有料207人）

IV. 「ボーダレス文学世界 大衆文学編」

平成30年11月23日（金・祝）～平成31年2月11日（月・祝） 64日間

入館者数 597人（うち有料317人）

V. 「良寛再発見」

平成31年2月22日（金）～3月21日（日） 24日間

入館者数 677人（うち有料321人）

常設ミニ展示①「号外 江戸城無血開城 越後人のひ孫＝勝海舟の快挙」（パネル展示）

平成30年7月6日（金）～1月20日（日） 147日間

常設ミニ展示②「ドナルド・キーン博士追悼展示 終戦を促した祖国愛 米軍将校と日本兵捕虜」

平成31年3月14日（木）～4月29日（月・祝） 33日間

これら企画展示などで26人の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。

教育普及事業 定例の作品解説会「月いちレクチャー」（原則：毎月第4土曜開催）のうち4回は外部講師を迎えての特別編を開催しました。加えて、3本の企画展示関連事業を開催しました。参加者総数は474人（前年度345人、前年比137%）で、内訳は「月いちレクチャー」が198人（前年度103人、前年比192%）、企画展示関連事業は276人（前年度242人、前年比114%）、館外活動としては、館長連続美術講座2テーマ（「西欧版 奇想の系譜」「浮世絵アラカルト」）と講演会で1,348人（前年度370人、前年比364%）、小中学校などによる団体観覧（総合学習含む）では26校651名（前年度30校416名、前年比4校減、来館者数156%増）が来館しました。特に、4月から6月にかけてと10月から11月にかけての校外学習で多数の中学生が来館しました。館外では、新潟日報やフリーペーパーへの寄稿、館長による西洋美術や浮世絵の連続講座、30年度に作成した「にいがた偉人かるた」を使ったかるた大会などを行いました。

調査及び研究・研修事業 文化人データベース構築作業を進めました。また、当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加して、顕彰施設や団体と交流しました。

広報 27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NSTの3団体から助成または共催をいただき、企画展示ごとに新聞広告やテレビCM、ラジオCMで広報を展開しました。ホームページに「今月の『新潟偉人』発見」の連載を開始しました。

2. 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
256日／365日間	109日／365日間	3,616人	1,901人	474人 (作品解説会および企画展示関連事業)

※平成29年度実績：開館日272日間 入館者総数4,737人 普及事業参加者総数345人

※29年度の当館企画展示のみの入場者数は2,694人（うち有料1,684人）。

※29年度の企画展示「近代詩のパイオニア 堀口大樹」の会期が30年4月15日（日）までだったため、4月1日（日）から4月15日（日）までの入場者数を含む。

3. 展示事業

① 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
前	① 受賞者「佐渡の人間国宝 三浦小平二と伊藤	4/27(金)～	104	*1. ③と⑤は企画展

期	赤水 新潟日報所蔵品より ② 医学「池田謙斎と入澤達吉」 ③ 新潟の女性「清岡千代野の民話集」*1 ④ 美術「洋画家・阿部展也」 ⑤ 文学「日本のアンデルセン・小川未明」*1	9/2(日)		示「子どもと夢の世界」の関連展示。
後期	① 受賞者「摩擦・潤滑研究のパイオニア 曾田範宗」 ② 医学「医学のパイオニアたち 司馬凌海・長谷川泰・荻野久作」 ③ 新潟の女性「プライバシーの権利を紹介した憲法学者 久保田きぬ子」 ④-1 反骨の系譜「前島密」*1 ④-2 美術「日本洋画のパイオニア 小山正太郎」*2 ⑥ 文学「にいがたの直木賞作家 鷲尾雨工・野坂昭如・綱淵謙錠・阿刀田高」*3	9/14(金)～ 31/3/21(木祝)	139	*1. 企画展示「日本近代化のパイオニア」の関連展示(展示期間:9/14～11/11)。 *2. ④「反骨の系譜」相関図と差し替えた後、展示(展示期間:11/23～3/21) *3. ⑥は企画「ボーダレス文学世界 大衆文学編」の関連展示(展示期間:9/14～3/21)
ミニ展示	ミニパネル展示「江戸無血開城 越後人のひ孫・勝海舟の快挙」	7/6(金)～ 31/1/20(日)	147	
	ミニ展示「ドナルド・キーン博士 追悼展示 終戦を促した祖国愛 米軍将校と日本兵捕虜」	3/14(木)～ 31/4/29(月・祝)	33	ドナルド・キーン・センター柏崎、新潟日報社との連携事業。 2016年10月開催の企画展示「終戦を促した祖国愛」の資料の一部を展示。
通年	文化勲章(10名) 文化功労者(14名) 人間国宝(2名)	4/27(金)～ 31/3/21(木・祝)	243	文化勲章受章者1名、文化功労者3名の紹介パネルを追加

② 企画展示

I 第34回 国民文化祭・にいがた2019 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会プレイベント

「子どもと夢の世界 ～日本のアンデルセン・小川未明、日本童画の父・川上四郎～」

会期	平成30年4月27日(金)～6月24日(日) 54日間
主催	にいがた文化の記憶館、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
後援	新潟県
協力企業	田村紙商事株式会社
趣旨	新潟県内各地には、古くからの民話が多く残っている。このことは、新潟に語りの文化が深く根付いていることを示している。近代に入り、子ども向けの文学が「おとぎ話」から「童話」に変化する過程で重要な人物・小川未明と、未明が作品を発表した児童雑誌で活躍した童画家・川上四郎を中心に紹介した。 あわせて、昔から語り継がれている越後の民話を知ってもらうため、むかし話語り部チェリー婆(バァバ)に実演をお願いした。
紹介文化人	小川未明(上越市)、川上四郎(湯沢町)、蓑谷虹児(新発田市)

協力団体 及び個人	小川未明文学館（上越市）、新発田市・麓谷虹児記念館、湯沢町教育委員会、湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」
展 示	小川未明と川上四郎の仕事にスポットを当てると共に、創作童話誕生前夜の文学『こがね丸』（巖谷小波作）と、アンデルセン童話に匹敵する芸術性の高い創作童話を目指して、鈴木三重吉が創刊した雑誌「赤い鳥」を紹介した。外国語による世界のおとぎ話も展示し、世界の流れからも児童文学を眺められるようにした。また、おとぎ話が語り継ぎによって伝えられてきたことに触れ、越後の民話も紹介した。合計 86 点の資料を、一部（川上四郎の原画と「越後湯沢全国童画展」優秀作品）を 3 期に分けて展示替えしながら紹介した。
関連事業	① 月いちレクチャー特別編「方言で越後の民話を楽しもう」全 3 回 参加者総数：98 人 開催日：4 月 28 日（土）、5 月 26 日（土）、6 月 23 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：むかし話 語り部 チェリー婆（バァバ）」（五十嵐 絹子 氏、松川 美恵子 氏）
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付、10,000 部）、ポスター（B2、片面カラー、400 部）：県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（23 回掲載） ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSN ラジオ ・雑誌等：カルチャーにいがた、月刊キャレル 5 月 20 日号、TAKE A WALK 6 月号 ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベントページ、新潟文化物語
掲載記事	4 月 7 日（土）新潟日報「民話を方言で披露 28 日、文化の記憶館」 4 月 28 日（土）新潟日報『子どもと夢の世界』展開幕 メルヘンへいざなう色使い 未明作品の掲載誌並ぶ 『日本童画の父』川上の絵も」 5 月 8 日（火）新潟日報こども新聞週間ふむふむ「夢あふれる童話の世界 来月 24 日まで文化の記憶館」 5 月 18 日（金）新潟日報夕刊「月いちレクチャー特別編 方言で越後の民話を楽しもう！」（参加者募集記事） 5 月 25 日（金）新潟日報夕刊「子どもと夢の世界」展（企画展示の案内） 5 月 26 日（土）新潟日報 窓欄「心を温めてくれた企画展」 5 月 31 日（木）新潟日報 展覧会へようこそ「童話・童画の二人の『父』」 6 月 1 日（金）新潟日報夕刊「月いちレクチャー特別編 方言で越後の民話を楽しもう！」（参加者募集記事） 6 月 6 日（水）日本経済新聞「童話と童画展「子どもと夢の世界～日本のアンデルセン・小川未明、日本童画の父・川上四郎～」（企画展示の案内） 6 月 14 日（木）長岡新聞「にいがた文化の記憶館 長岡出身の画家・川上四郎を回顧 上越出身の小川未明なども」 2 月 9 日（土）新潟日報 窓欄「白秋と耕筥の友情に感動」
入館者数	867 人（うち有料 543 人）
総括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○ 評価点 ・解説パネルに子ども向けの解説文を併記した。 ・ウォールケースに雑誌をたくさん展示するため、まとまりが見えるように雑誌毎に色画用紙を敷いて見やすくなるように工夫した。 ・世界の児童文学とともに、小川未明と川上四郎を紹介することができた。 ・月いちレクチャー特別編「方言で越後の民話を楽しもう！」は参加者に好評だった。回を追うごとに参加者が増えた（日報掲載の募集記事や参加者の口コミで）。語り部の五十嵐さん・松川さんや何人かの参加者から、また開催してほしいとの声があった。 ・湯沢町公民館で販売している川上四郎絵はがき（全 32 種・1 枚 100 円）を仕入れて、受付で販売したところ、好評だった。 ■ 検討課題 ・チラシや社告に、会期中に川上四郎作品を展示替えすることを明記していなかった。社告に掲載した《うさぎうさぎ》（1 期展示）を見たくて来た方がいた。 ・「川上四郎の絵や絵本がもっとたくさん見られるかと思った」という声があった。⇒アンケート回答として、当該展示終了後、常設展示「文学」コーナーで「日本のアンデルセン・小川未明」というテーマで、小川未明童話が掲載されている雑誌と川上四郎の絵はがきを展示した。

	・川上四郎作品や童画展の作品の展示替えをしたときに日報に載せてもらったらよかった。
担 当	秋岡 啓子、伊豆名 皓美、石垣 雅美

II 「佐渡の能楽と世阿弥 吉田東伍と世阿弥発見」

会 期	平成 30 年 7 月 7 日（金）～ 9 月 2 日（日） 50 日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	阿賀野市立吉田東伍記念博物館、吉田文庫、佐渡能楽倶楽部、清遊舎、佐渡市立佐渡博物館
趣 旨	能の大成者である世阿弥は 70 歳を過ぎて、佐渡島に配流された。そこで、小謡集『金島書』を編んだが、佐渡島での世阿弥の足跡はよくわかっていない。またその後の消息も不明だった。そのためか長い間、世阿弥は実在したかどうか定かでない伝説上の人物だと考えられていた。 1908（明治 41）年、阿賀野市出身の歴史地理学者・吉田東伍が銀行財閥の安田家の書庫から世阿弥が息子たちに伝えた秘伝書を発見、解説して『能楽古典 世阿弥十六部集』として発表。これにより近代能楽研究の礎が築かれた。本展では、吉田東伍を中心に、世阿弥と佐渡の能楽を紹介した。 関連事業として、能楽研究者の齋藤達也氏を講師に迎えて、月いちレクチャー特別編「能楽入門」を開催した。
紹介文化人	吉田東伍（阿賀野市）、萩野由之（佐渡市）
協力団体及び個人	阿賀野市立吉田東伍記念博物館、吉田文庫、佐渡能楽倶楽部、清遊舎、佐渡市立佐渡博物館
展 示	能楽をテーマとした展覧会は企画されることが少なく、能楽愛好者も多くないことから、能楽を知ってもらうことを主に展示計画を立てた。29 年度末に阿賀野市立吉田東伍記念博物館で開催された吉田東伍と能楽をテーマとした企画展での展示資料の一部をお借りした。また、佐渡に残る能楽を紹介するため佐渡市立佐渡博物館と佐渡能楽倶楽部にご協力いただき、貴重な資料をお借りして展示した。
関連事業	①月いちレクチャー特別編「能楽入門」 参加者数：54 名 開催日：8 月 25 日（土）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分 会場：にいがた文化の記憶館 講師：齋藤達也氏（能楽研究家） ②月いちレクチャー「佐渡の能楽と世阿弥」全 1 回 参加者数：9 名 開催日：7 月 28 日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部、ポスター（B2、片面カラー、400 部）：能楽関係者、県内顕彰施設や図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（11 回掲載） ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSN ラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語、インターネットミュージアム
掲載記事	6 月 24 日（日）新潟日報おとプラ「6 日から、にいがた文化の記憶館 近代能楽研究の礎 紹介」 7 月 13 日（金）新潟日報おとプラ（企画展示案内） 8 月 3 日（金）新潟日報「世阿弥『発見』、東伍の業績紹介 能装束や面も公開」 8 月 24 日（金）新潟日報おとプラ（企画展示案内）
入館者数	6 4 1 人（うち有料 4 3 2 人）
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・専門的なテーマであったが、阿賀野市立吉田東伍記念博物館、吉田文庫、佐渡市立佐渡博物館、佐渡能楽倶楽部などにご協力をいただき、吉田東伍や佐渡の能楽に関する資料を紹介することができた。 ・学校教諭が授業で能楽を教える際の参考となるよう、学校への広報に力を入れた。それにより、本展では学校関係者の来館が目立った。 ・本展で展示した資料を貸して下さった能楽研究家の齋藤達也氏から月いちレクチャー特別編で講演いただき、多くの参加者があった。

	<p>・イベントアンケートでは「能の奥深さを知る事が出来ました。能の楽しみ方が変わります。60代・女性」、「目からうろこが落ちるとはこんなことをいうのかな、興味深く楽しい時間を過ごさせていただきました。貴重な1時間でした。70代・男性」などの声があった。</p> <p>■検討課題</p> <p>・専門的なテーマであったため、愛好者から、能の勉強が足りないのご指摘をいただいた。専門的なテーマで企画展示を準備する場合、専門家に監修をお願いするなど検討していきたい。</p>
担 当	石垣 雅美

Ⅲ 第34回 国民文化祭・にいがた2019 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会プレイベント

「日本近代化のパイオニアたち 現代情報化社会の先達—前島密・大橋佐平・大橋新太郎・坪谷善四郎・市島謙吉—」

会 期	平成30年9月14日(金)～30年11月11日(月・祝) 51日間
主 催	にいがた文化の記憶館、公益財団法人新潟県文化振興財団、新潟日報社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
協 力	郵政博物館、前島記念館、新潟県立図書館、博文館新社、三康図書館
趣 旨	外国への扉が開いた明治時代、日本は西欧の制度や文化を採り入れて近代化を推し進めた。鉄道などのインフラ整備から始まって、生活が様変わりしていくなか、新潟県人が先駆的な活動をして、郵便制度、電信電話、運輸、新聞・出版などの通信網の整備、及びデータベースの基礎となる図書館の創設とその近代化など、現代の情報化社会の基礎を築いた。本展ではこれらのパイオニアたち—前島密・大橋佐平・大橋新太郎・坪谷善四郎・市島謙吉—を関連資料とともに紹介した。
紹介文化人	前島密(上越市)、大橋佐平(長岡市)、大橋新太郎(長岡市)、坪谷善四郎(加茂市)、市島謙吉(阿賀野市)、反町茂雄(長岡市)
協力団体及び個人	郵政博物館、前島記念館、新潟県立図書館、博文館新社、三康図書館
展 示	<p>本展は「現代情報化社会の先達」である新潟の偉人を紹介する企画であったので、3章立てによる展示計画を立てた。②、③情報検索の原点＝データベースとしての図書館の近代化)による展示計画を立てた。</p> <p>①「前島密と情報ネットワーク」では、「日本近代郵便の父」といわれる前島密を「現代情報化の父」として再評価する資料を展示した。また、前島の業績が多岐にわたっていることから、郵政博物館の協力のもと、業績パネルを作成して紹介した。②の「近代図書館の誕生 大橋図書館から日比谷図書館まで」では、日本の近代図書館の誕生に貢献した大橋佐平・新太郎父子、坪谷善四郎、反町茂雄らを紹介。③「情報検索の原点＝データベースとしての図書館の近代化」では早稲田大学初代図書館長の市島謙吉の業績に、早大と県人の関わりも加えて展示した。</p> <p>郵政博物館からお借りした郵便集配人の制服を試着できるコーナーを設けて、来館者が写真を撮れるようにした。</p>
関連事業	<p>①神林恒道館長による講演会「現代情報化社会の先達—前島密・大橋佐平・大橋新太郎・坪谷善四郎・市島謙吉—」 参加者数：65名 開催日：10月24日(水) 会場：メディアシップ 2階 日報ホール 講師：神林 恒道 館長</p> <p>②月いちレクチャー全3回 参加者総数：12名 開催日：9月22日(土)、10月27日(土) 会場：にいがた文化の記憶館 担当：伊豆名皓美、石垣雅美</p>
広 報	<p>・チラシ(A4、両面カラー、割引券付) 12,000部、ポスター(B2、片面カラー、400部)：県内文化施設や中学校、図書館などに発送</p> <p>・新聞広告：新潟日報(全14回)</p> <p>・テレビCM：NST</p> <p>・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語、インターネットミュージア</p>
掲載記事	<p>9月13日(木) 新潟日報夕刊「情報化社会 築いた県人」</p> <p>9月14日(金) 新潟日報夕刊「日本近代化のパイオニア」(企画展示案内)</p> <p>9月25日(火) 新潟日報「近代化に尽力 業績学ぶ 新潟で企画展 前島密ら5県人紹介」</p>

	<p>10月20日(土)新潟日報「近代化に力注いだ県人紹介 24日、新潟で講演会」</p> <p>10月23日(火)新潟日報 展覧会へようこそ『日本近代化のパイオニアたち 現代情報化社会の先達』展 郵便や図書館 県人が礎」</p> <p>10月26日(金)日本経済新聞「企画展『日本近代化のパイオニアたち 現代情報化社会の先達』」</p> <p>11月9日(金)新潟日報「前島密らの功績詳しく『文化の記憶館』 神林館長が講演」</p>
入館者数	691人(うち有料207人)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本展のオープン前日9月13日(木)に新潟日報夕刊「おとなプラス」で、紹介記事を掲載してもらえた。オープン翌日の9月15日(土)に新潟日報朝刊にて国民文化祭の広告掲載もあり、計らずもオープン前後で連続して広報することができた。 ・本展を開催したことで、「前島密=郵便の父」という古くからのイメージであった前島を「現代情報化社会の先達」として再評価するきっかけを作ることができた。 ・私たちに身近な図書館の歴史や近代化に尽力した県人を紹介したことで、ほぼ毎月の月いちレクチャーに参加して下さる当館の年間パスポート会員から勉強になったとの声をいただいた。 ・郵政博物館から、黒塗柱箱(黒ポスト)や郵便物集配人の制服を着せるマネキン、郵便物通送人の模型を借用することができたので、立体的な展示をすることができた。 ・郵便物集配人の制服試着コーナーは、団体見学の小中学生に好評だった。 ・館長講演会は平日午後に開催することが多いため、40代男性の参加はほとんどなかったが、本講演会では40代男性の参加もあり、若い世代にも興味を持ってもらえたと確認できた。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ、ポスターのデザインが地味すぎ、または企画展タイトルが長すぎたのか、広報媒体での訴求力が期待するほどではなかった。次年度の企画展示を計画する際にこの課題を生かしたい。 ・「現代情報化社会の先達」というキーワードで企画展示を構成したが、展示物や造作をとおして伝わったのか、わかりやすかったのか再検討したい
担当	石垣 雅美、伊豆名 皓美

IV 「ボーダレス文学世界 大衆文学編」

会期	平成30年11月23日(金・祝)～31年2月11日(月・祝) 64日
主催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	佐渡市立佐渡博物館、赤泊郷土資料館、新潟市立中央図書館、新潟市立黒崎図書館、佐藤隆コレクション
趣旨	<p>大衆文学の分野で名を残しているひとりが佐渡市出身の長谷川海太郎。長谷川は3つのペンネームを用いて股旅物などの時代小説や探偵小説、体験記を発表。なかでも、筆名・林不忘で書いた『丹下左膳』が大ヒット、幅広い世代を魅了した。後進の時代小説家に山岡荘八がいる。</p> <p>1930年代、大衆文学は日本文学のいちジャンルとして確立した。この頃、菊池寛が創設したのが芥川賞と直木賞。大衆文学を対象とする直木賞を受賞した県人作家が、鷺尾雨工、野坂昭如、綱淵謙錠、阿刀田高である。大衆文学に現代を舞台とする小説も含まれるようになり、このジャンルで活躍したのが吉屋信子。無頼派作家・坂口安吾の守備範囲は広く、純文学から、探偵ものや時代小説まで執筆し、ボーダレスな活躍をした。</p> <p>本展では、大衆文学の分野で活躍した新潟県出身またはゆかりの小説家たちを資料とともに紹介した。</p>
紹介文化人	鷺尾雨工(新潟市・小千谷市)、吉屋信子(新潟市)、長谷川海太郎(佐渡市)、坂口安吾(新潟市・十日町市)、山岡荘八(魚沼市)、綱淵謙錠(新潟市)、野坂昭如(新潟市)、阿刀田高(長岡市)
協力団体及び個人	佐渡市立佐渡博物館、赤泊郷土資料館、新潟市立中央図書館、新潟市立黒崎図書館、佐藤隆コレクション

展 示	本展で紹介した小説家たちは一人を採り上げも企画展が出来る人物たちであるが、大衆小説というジャンルの中で一度に紹介するために、大衆文学の成り立ちから新潟の直木賞作家紹介までを一見できる相関図を作成し、各小説家の代表的な著書とともに紹介した。 神林館長に本展の解説文を執筆いただいた。それを基に相関図を作成した。
関 連 事 業	①神林恒道館長による講演会「ボーダレス文学世界 大衆文学編」 参加者数：40名 開催日：1月18日（金） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール 講師：神林 恒道 館長 ②月いちレクチャー全3回 参加者総数：9名 開催日：11月24日（土）、12月22日（土）、1月19日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：石垣雅美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー、400部）：県内顕彰施設、図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（28回掲載） ・テレビCM：NST ・ラジオCM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NSTイベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）
掲 載 記 事	12月8日（土）新潟日報「本県ゆかり長谷川海太郎らに光 いざなう大衆文学の世界 新潟で企画展」 12月21日（金）新潟日報夕刊 まちの掲示板（企画展示の案内） 1月4日（金）新潟日報夕刊 まちの掲示板（館長講演会の案内） 1月22日（火）新潟日報「県人・長谷川海太郎らテーマ 大衆文学 逸話で身近に『文化の記憶館』館長が講演」 2月7日（木）新潟日報 座標軸「丹下左膳 『魔王』が愛したヒーロー」（執筆：森沢真理論説編集委員室長）
入 館 者 数	597人（うち有料317人）
総 括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・なじみ深い断片的にしか知られていない大衆文学について、長谷川海太郎や山岡荘八、坂口安吾などの作家紹介だけでなく、県外作家の著作も交えた大衆文学の歴史のなかで、県人作家を紹介したことで、大衆文学の広がりや豊かさを紹介できた。 ・アンケートでは「文学作家の相関図、新潟県出身（ゆかり）者の多いことにあらためて感じる」などの感想があった。 ・イベントアンケートでは「分散していた知識・文学が時系列的によくまとめられて、プレイバックしながら思い出にひたりました。感謝です！「文学のひろがり」うれしいですね。映画ポスターが懐かしかったですねえ。映画少年（S15年生）の小生にとって思い出です。70代・男性」、「日本文学の流れがよくわかりました。頭がスッキリしました。50代・女性」などの声があった。 ■検討課題 ・本展では著作以外の資料も交えて展示を構成したが、展示計画などを再検討して次に生かしたい。
担 当	石垣 雅美

V 「良寛再発見」

会 期	平成31年2月22日（金）～31年3月21日（木・祝） 24日
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
協 力	全国良寛会
監 修	小島 正芳 氏（良寛研究家、全国良寛会副会長、一般財団法人良寛会理事長）
趣 旨	2020年は、良寛（1758～1831年）が没して190年になる。良寛は出雲崎の名主の跡取りとして生まれ、18歳で出家し、家業は弟に託した。曹洞宗の僧として諸国で修業した後、39歳で故郷の越後に戻り、燕市国上山に庵を結んで暮らした。自分の寺を持たず、日が暮れるまで子どもたちと手毬で遊び、人々から親しまれていた。良寛が残した詩歌や書は、後世に多くの

	敬慕者を生んだ。明治・大正初期、まだ良寛の名が全国に知られていない中、良寛研究を始めたのは會津八一や山崎良平らであった。本展は、小島正芳氏から監修していただき、今日の良寛研究の基礎を固めた先人達を紹介した。
紹介文化人	良寛（出雲崎町）、岩田正巳（三条市）、相馬御風（糸魚川市）、會津八一（新潟市・胎内市）
協力団体及び個人	全国良寛会、長谷川義明氏、小島正芳氏
展 示	小島正芳氏監修の下、良寛を描いた作品と良寛の書軸、計 8 点と、良寛を顕彰した文化人に関する資料 16 点を展示した。また、良寛を顕彰した文化人 20 人のプロフィールと、良寛及び良寛研究家の顕彰施設の地図を作成し、パネルで紹介した。 展示解説文を小島正芳氏より執筆いただき、それを基に展示解説パンフレット（ダイジェスト版）を作成、販売した。
関連事業	① 長谷川義明氏と小島正芳氏による対談「良寛再発見」 参加者数：171 人 開催日：3月19日（火） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール 出演：長谷川義明氏（当館理事長、全国良寛会会長）、小島正芳氏（本展監修者、良寛研究家、全国良寛会副会長、一般財団法人良寛会理事長） ② 月いちレクチャー「良寛再発見」全 2 回 参加者総数：16 人 開催日：2月23日（土）、3月16日（土） 会場：にいがた文化の記憶館 担当：伊豆名皓美
広 報	・チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部、ポスター（B2、片面カラー、400 部）：県内顕彰施設、図書館などに発送 ・新聞広告：新潟日報（11 回掲載） ・テレビ CM：NST ・ラジオ CM：BSNラジオ ・ホームページ：当館、メディアシップ、NST イベント、新潟文化物語（新潟県文化振興課）、インターネットミュージアム ・雑誌等：TAKE A WALK3 月号、月刊キャレル 3/20 号
掲載記事または番組	2月23日（土）新潟日報「良寛学べる 26 点一堂に にいがた文化の記憶館企画展始まる」 2月23日（土）NST 県内ニュース（企画展示開幕のニュース） 3月19日（火）NST 県内ニュース「良寛の心や書のエピソードを披露」対談で理解深める（対談イベント開催報告） 3月23日（土）新潟日報「良寛さんの『清貧の心』現代人に響く 専門家が解説、対談」
入館者数	677人（うち有料321人）
総括（展示全般および地域への関わりと効果など）	○評価点 ・全国良寛会や、新潟県内の良寛会会員のネットワークにより、多くの方からご来館頂き、対談イベントにもご参加頂いた。 ・限られたスペースながら、多岐にわたる良寛の真跡（画蹟・漢字・かな）を借用できた。また、良寛顕彰家 20 人もあわせて紹介したことで、当館らしい展示になった。多くの人物が良寛顕彰に関わっていたことを紹介することができた。 ・良寛及び良寛研究家の顕彰施設について、マップとパンフレットでまとめて紹介することができた。 ・長谷川義明氏と小島正芳氏による対談には、両氏を目当てに参加を申込んだ方が多かった。当日は、対談の形式が「わかりやすかった」と好評だった。 ■検討課題 ・小島正芳氏の展示解説文をもとに解説パンフレットを作成したが、初めての試みだったため時間がかかってしまい、完成が対談イベント（3/19）の前日になってしまった。
担 当	伊豆名 皓美

4. 教育普及事業

① 神林館長講座（参加者数：1209人） ※29年度実績：350人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
-----	-----	-----	----	------

1	にいがた文化の記憶館×おとプラ倶楽部 館長連続講座「芸術学アラカルト 西欧版 奇想の系譜」①～⑥	4月19日 ～ 7月3日	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	延べ 656人
2	神林恒道館長美術講座 浮世絵アラカルト①～⑤	8月23日 ～ 1月11日	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	延べ 553人

② 企画展示関連事業（参加者総数：276人） ※29年度実績：242人

ケル	事業名	開催日	内容	参加者数
Ⅲ	館長講演会 「日本近代化のパイオニア 現代情報化社会の先達」	10/24(水)	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	65人
Ⅳ	館長講演会 「ボーダレス文学世界 大衆文学編」	1/18(金)	講師：神林 恒道 館長 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	40人
Ⅴ	長谷川義明氏と小島正芳氏による 対談「良寛再発見」	3/19(火)	講師：長谷川 義明 氏（当館理事長、全国良寛会会長）、小島 正芳 氏（本展監修者、全国良寛会副会長、一般財団法人良寛会理事長） 会場：メディアシップ 2階 日報ホール	171人

③ 作品解説会「月いちレクチャー」（参加者総数：198人） ※29年度実績：103人

ケル	事業名	開催日	内容	参加人数
Ⅰ	特別編「方言で越後の民話を楽しもう！①」	4/28(土)	講師：むかし話 語り部 「チェリー婆（バァバ）」 （五十嵐 絹子 氏、松川 美恵子 氏）	28人
	特別編「方言で越後の民話を楽しもう！②」	5/26(土)		32人
	特別編「方言で越後の民話を楽しもう！③」	6/23(土)		38人
Ⅱ	「佐渡の能楽と世阿弥」	7/28(土)	担当：石垣 雅美	9人
	特別編「能楽入門」	8/25(土)	講師：齋藤 達也 氏（能楽研究家）	54人
Ⅲ	「日本近代化のパイオニア① 前島密」	9/22(土)	担当：伊豆名 皓美	2人
	「日本近代化のパイオニア② 図書館の近代化と新潟人」	10/27(土)	担当：石垣 雅美	10人
Ⅳ	「ボーダレス文学世界① 長谷川海太郎」	11/24(土)	担当：石垣 雅美	2人
	「ボーダレス文学世界② 大衆文学とは」	12/22(土)	担当：石垣 雅美	2人
	「ボーダレス文学世界③ 鷺尾雨工」	1/19(土)	担当：石垣 雅美	5人
Ⅴ	「良寛再発見①」	2/23(土)	担当：伊豆名 皓美	8人

「良寛再発見②」	3/16(土)	担当：伊豆名 皓美	8人
----------	---------	-----------	----

④ 学校との連携事業（参加者総数：229人） ※H29年度は11人

事業名	期間	内容
フィールドワーク（総合学習） 新潟市立木戸中学校2年生23名、引率1名	5月25日(金)	担当：石垣雅美、外山陽子 内容：「観光と文化資源」をテーマに見学。当館見学後は修学旅行先の東京で文化施設を見学予定。帰京後に「より良いまちづくり」をテーマに学ぶ予定。事前に副読本「まえがき」を読んできてもらう。
校外学習活動（総合学習） 新潟市立小瀬小学校6年生21名、引率2名	7月20日(金)	担当：石垣雅美 内容：新潟港開港150年で新潟の発展のために先人がどのように尽くしてきたかが学習目的。当館では水被害をテーマに医学と新潟市について学習。
メディアラーニング NHK学園高等学校2年生次15名、引率1名	12月9日(日)	担当：石垣雅美 内容：メディアと展示をテーマに当館を見学。
校外学習 長岡市立上川西小学校5年生112名、引率6名	1月18日(金)	担当：伊豆名皓美、石垣雅美、外山陽子 内容：「くらしを支える情報」をテーマにメディアシッポの施設の一つとして当館を見学。
「にいがた偉人かるた」出前授業・かるた大会 長岡市立阪之上小学校4年生45名、先生3名	出前授業： 2月15日(金)	担当：石垣雅美 内容：「にいがた偉人かるた」で紹介している長岡出身の屋井先蔵、堀口大學、杉本鉞子について説明。
	かるた大会： 2月19日(火)	担当：武藤斌、石垣雅美、伊豆名皓美、外山陽子、高岡信也、唐沢俊郎氏（（公財）新潟県文化振興財団事務局長） 内容：「にいがた偉人かるた」を使ってのかるた大会を実施。読み手は武藤事務局長。他は立会い人。

※30年度に来館した小中学校数及び生徒数：26校、651名

⑤ その他事業（執筆活動、講演会など）

■ 執筆活動

No.	タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
1	フリーペーパー『喜怒哀楽』連載寄稿 「にいがた文化の記憶館便り」	4月、6月、 8月、10月、 12月、2月	企画展示の紹介に合わせ、当該展示で採り上げた新潟ゆかりの文化人について解説	秋岡 啓子 (4月) 伊豆名 皓美 (6・2月)
2	新潟日報「展覧会へようこそ」 「子どもと夢の世界」展 童話、童画の2人の「父」	5月31日(木)	企画展示「子どもと夢の世界」を紹介。	伊豆名 皓美
3	ホクギンマンスリー寄稿 「開港と新潟の女性たち」	5月	新潟港の開港150年を記念して、当館で展示している女性（藤蔭静樹、川田芳子、小唄勝太郎）を紹介。	石垣 雅美
4	新潟日報「展覧会へようこそ」 「日本近代化のパイオニアたち 現代情報化社会の先達」展 郵便や図書館県人が礎	10月23日(火)	企画展示「日本近代化のパイオニアたち 現代情報化社会の先達」を紹介。	石垣 雅美

■ 講演会など（参加者総数：139人） ※29年度は20人

No.	事業名	開催日	内容	参加者数
1	新潟日報政経懇話会 演題：長岡の文化力	7月19日	講師：神林 恒道 館長 会場：会館 青膳	49人
2	新潟しあわせ大学平成会 講演会 演題：にいがたの近代医師たち	2月28日	講師：武藤 斌 事務局長 会場：新潟市万代市民会館	90人

5. 調査及び研究・研修事業

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

No	掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
1	新潟日報	5/12(土)	「捕虜になった記者 小柳元本社社長資料 よみがえる戦地の記憶」	森沢真理 論説編集 委員室長
2	新潟日報	5/21(月)	座標軸「元捕虜の書簡 ズーザー弁の流行歌に涙」	森沢真理 論説編集 委員室長
3	新潟日報	7/20(金)	日報政経懇「人材輩出 誇るべき文化 會津八一記念館館長 神林恒道氏」	—
4	新潟日報	7/26(木)	「本県とゆかり 勝海舟を紹介 新潟・文化の記憶館」	—
5	新潟日報	10/19(金)	ニイガタレビュー「芸術は世界といかにかかわるか」(デューダ・イエーニツヒ著、神林恒道訳)	伊坂青司 神奈川 大学教授
6	新潟日報	2/16(土)	「阪之上小 4年生 かるたで偉人学んだよ 文化の記憶館 学芸員が解説」	—
7	新潟日報 こども新聞 週刊ふむふむ	2/26(火)	「ふるさとに愛着込めて郷土かるた 方言や文化盛り込む ふむふむでおなじみ！ 新潟の偉人も」	—
8	新潟日報	3/12(火)	「文化の記憶館 郷土の偉人楽しく紹介」	—
9	新潟日報	3/15(金)	「キーンさん追悼 記帳台を設置 文化の記憶館」	—
10	新潟日報 ふむふむ	2018/ 4/3(火)～ 2019/ 3/26(火) ※連載開始： 2018/1/9	連載「なるほど偉人県人」平成30年度掲載：48名 (相馬御風、牛腸茂雄、小川亮作、内山賢次、西脇順三郎、會津八一、渡邊萬寿太郎、川上四郎、式場隆三郎、金子健二、坂口仁一郎、吉田東伍、石田吉貞、天田昭次、鈴木文臺、松岡譲、小山作之助、小柳司氣太、鈴木牧之、尾台榕堂、村田文蔵、高橋誠一郎、鷺尾雨工、池田恒雄、阿部展也、長谷川巳之吉、石黒敬七、原久一郎、久保田きぬ子、渡邊義雄、大倉喜八郎、富岡惣一郎、川田芳子、井上圓了、横山操、近藤喜文、石塚三郎、小川未明、長谷川泰、伊藤誠哉、青山杉作、藍沢南城、市島謙吉、宮終二、益田孝、小田嶽夫、平澤興、小林虎三郎) ※掲載順	—

② パスポート会員募集広告掲載一覧

掲載紙名	新潟日報 地域欄	※展示資料に関連する文化人の出身地の地域に掲載
------	----------	-------------------------

掲 載 日	毎週水曜 ※地域欄の掲載内容により曜日変更あり
掲 載 内 容 (掲載順)	4月～6月「子どもと夢の世界」展示資料(中越、上越) 6月～8月「佐渡の能楽と世阿弥」展示資料(下越県央、佐渡、新潟) 9月～11月「日本近代化のパイオニア」展示資料(上越、中越、下越) 11月～2月「ボーダレス文学世界 大衆文学編」展示資料(佐渡、新潟、中越) 2月～3月「良寛再発見」展示資料(中越、上越、新潟)

※新潟日報朝刊(毎週水曜)に「子どもは未来の文化大使、年間パスポート会員募集」(通年で掲載)と企画展示資料を紹介。

7. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常設展示 (相関図)	○これまで展示することのなかった理系研究者(摩擦・潤滑の研究者・曾田範宗)を展示し、来館する子どもたちに企画展示に紹介することが出来た。 ○H30年度に文化功労者に認定された新潟県人を紹介する受賞者パネルを設置した。 ○大河ドラマなど時世にあわせたミニ展示を行った。	▲展示できない相関図(中国学、反骨の系譜)のバナー展示を始めた。 ▲これまで紹介していなかった文化勲章受賞者・文化功労者のパネルを作成し、展示した。
	企画展示	○次年度開催の国民文化祭と連携した企画展示を開催することが出来た。 ○身近にありながらも知られていないテーマを資料とともに紹介できた。 ○「良寛再発見」では小島正芳氏に監修いただいたことで、幅広い層のお客様が来館された。	▲国民文化祭を通じて、県内顕彰施設や団体との連携を進めた。 ■25年度からの課題だが、出展する顕彰施設や団体のPRが出来るよう、年間広報計画を立案し、早めに広報展開できるように仕組みを作る必要がある。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○29年度から始めた館長連続講座を2テーマ(西洋美術、浮世絵)開催したことで多くの参加者があった。それにより、当館のイベントへの参加者も増えてきた。 ○小学校や中学校の校外学習の受け入れを続けたことで、見学時に生徒からインタビューを受けるなど学校と連携した見学が増えてきた。	▲館長連続講座では広告を出して、広くPRした。
	顕彰施設 及び団体 との連携	○各施設や団体よりパンフレット設置、画像提供等での協力を得た。 ○企画展示を通じて、顕彰施設や団体と連携した。	■各施設や団体への連携や協力を仰ぐため、早めに依頼したり相談したりできるように仕組みづくりや準備を進めたい。 ■前年度からの課題だが、県内顕彰施設の来館者増を図るためのツール(印刷物など)の作成が必要。
	副読本・ 偉人かるた	○文化功労者が増えたことから、副読本パンフレットを改定した。	■前年度からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりを進めたい。

		○「にいがた偉人かるた」を作成し、販売を始めた。かるた購入者が後日副読本を購入するケースがみられた。	■新年度直ぐに副読本パンフレットを配布すると、じっくり手に取る機会が減るため、配布時期の再検討が必要。
	人物選定委員会		■25年度から事業計画に挙がっているが、立上げ準備ができていない。31年度以降の発足を目指してスケジュール案を作成する。
調査・研究		○常設展示や企画展示にあわせて、文化人の調査ができた。	▲文化人データベース構築を進めている。
広報		○ホームページで開設しただけだった「今月の新潟偉人」の連載を始めた。	▲Facebookなどで活動状況やイベント案内などの発信を続けた。 ■地味なテーマの企画展示を見てもらうための効果的な広報計画を進めたい。

【参考資料】 ◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>〔4月〕新潟市美術館・前山裕司館長、松沢寿重主幹、新潟日報社新入社員6名、新潟県保健衛生センター・安藤哲也理事長、田中正美氏、江戸千家・川上宗雪家元、新潟不白会・中野宗順会長、湯沢町・島村文男教育長、湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」・貝瀬健太館長、新潟大学教育学部・角田勝久准教授、新潟大学名誉教授・加藤僖一氏</p> <p>〔5月〕新潟県県民生活環境部文化振興課国民文化祭障害者芸術文化祭室・小川裕輔室長、小河原太郎政策企画員、新潟県県民生活環境部文化振興課・村上陽介氏、湯沢町公民館・岩崎裕一館長、春城会・小泉豊信会長、日和山五合目・野内隆裕館長、公益財団法人新潟県文化振興財団・唐沢俊郎事務局長、小原弘志評議員、橋本博文評議員</p> <p>〔6月〕奈良市・小林茂樹衆議院議員、長岡新聞社1名、北越印刷2名、湯沢町教育委員会教育課・南雲香奈氏、長谷川義明理事長、秋艸会・鈴木清一副会長、眞壁伍郎氏、眞壁葉子氏</p> <p>〔7月〕原田玉栄氏、佐渡郷土文化・山本修巳氏、アサヒビール芸術文化財団・加藤種雄元顧問、新潟市文化創造推進課・高野和久課長、公益財団法人新潟県文化振興財団・唐沢俊郎事務局長、渋谷真由美氏、新潟市新津美術館・横山秀樹館長、公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部・本間則昭専任幹事、長谷川義明理事長、齋藤日出子氏、市島邸</p> <p>〔8月〕東寺・砂原秀輝師執事長、東寺・氏、清遊舎・齋藤達也代表、ワークアウト・吉井信仁氏、狂言師・湯田拓也氏、名古屋女子大学・林和利教授、株式会社クレヴィス、多田亜生氏、株式会社岩の原葡萄園企画部・今井圭介部長代理、齋藤日出子氏、UX新潟テレビ21・織原正明エクゼクティブプロデューサー、株式会社グリッパ・横山氏、株式会社新潟伊勢丹・小倉裕登マネージャー、野中浩俊評議員、吉田文庫・吉田ゆき代表、小野里優子氏</p> <p>〔9月〕糸魚川市議会市民厚生常任委員会・田原実委員長、秋艸会・上村光司会長、加茂市立図書館・土田修也館長、新潟大学教育学部・角田勝久准教授、東京国立博物館・富田淳学芸企画部長、阿賀野市立吉田東伍記念博物館・渡辺文男元館長、阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会・長谷川明一会長、早稲田大学図書館戸山図書館・藤原秀之課長、前島記念館・利根川文男館長、神鋼造機株式会社・篠原初日氏、上木康平氏、新潟日報社・服部誠二局長他2名様</p> <p>〔10月〕染色家・福本繁樹氏、福本潮子氏、日報友の会・坂上義興氏、佐藤悟氏、鈴木聖二氏、渡辺隆氏、新潟日報社・鶴間尚局長、文藝春秋社ノンフィクション編集部・下山進局長、小田敏三理事、佐藤明評議員、ハートワーキングプロジェクト・林三枝副理事長、ソニックソリューションズ・木口麻生氏、西村智奈美衆議院議員、胎内市美術協会・高橋与兵衛会長、株式会社博文館新社・佐伯健執行役員、阿賀野市立吉田東伍記念博物館・渡辺文男元館長、喜怒哀楽書房・木戸敦子代表、長谷川義明理事長、UX新潟テレビ21・織原正明エクゼクティブプロデューサー、林修氏、東京大学史料編纂所・本郷和人教授、前島記念池部郵趣会・佐々木雄二会長、新潟県県民生活環境部・佐藤浩幸政策企画員他8名様、北方文化博物館・伊藤瑠子氏</p> <p>〔11月〕渡辺英美子評議員、公益財団法人新潟県文化振興財団・唐沢俊郎事務局長、在新潟中国総領事館・孫大剛総領事他2名様、新潟大学人文学部・石田美紀准教授、大阪大学・上倉庸敬名誉教授、村山稔理事、鶴見大学・和泉久子名誉教授、浅井慎平氏、株式会社飛鳥園・若松保宏氏、秋葉区キッズポート2名様</p> <p>〔12月〕新潟日独協会・渡辺隆会長、燕市観光協会・齋藤優介氏、奈良聖林寺ご住職様、旦那様、全国良寛会・小島正芳副会長、巻菱湖記念時代館・磯島達典副館主、森澤真理元評議員、吉田眞理理事、新潟日報社・上杉建夫部長、桂三木助氏、新潟県博物館協議会・徳永健一顧問、BSN新潟放送・竹石松次会長、糸魚川市教育委員会文化振興課2名様</p> <p>〔1月〕秋艸会・佐藤悟事務局長、新潟大学教育学部・岡村鉄琴教授、新潟日报社・上杉建夫部長、中江有里氏、オフィスクレヨン・鈴木理恵マネージャー、十日町市・吉村重敏議員、村山稔理事、森澤真理元評議員、新潟市文化スポーツ部・中野力部長</p> <p>〔2月〕森澤真理元評議員、平山征夫新潟国際情報大学顧問、新潟市潟東歴史民俗資料館・中島榮一元館長、全国良寛会・小島正芳副会長、高橋正秀元評議員、村山稔理事、長谷川義明理事長</p> <p>〔3月〕長谷川義明理事長、新潟大学・加藤僖一名誉教授、株式会社みかづき・小林厚史営業部長、寺田ヒロオ研究会・竹内和宏氏</p>
ご遺族	渡辺湖畔ご遺族、安宅安五郎ご遺族、萩野由之ご遺族、石塚三郎ご遺族、守屋恒三郎ご遺族

<p>団体観覧 (一般)</p>	<p>[6月] 紫雲寺商工会女性部 15名 [10月] 胎内市美術協会 19名 計2団体(34名)</p>
<p>団体観覧 (学校) ※引率者 を含む ※太字は 前年度以 前から継 続して見 学してい る学校</p>	<p>[4月] 新潟市立東新潟中学校2年生53名 [5月] 新潟市立亀田中学校2年生5名、新潟市立大形中学校2年生5名、新潟市立白根第一中学校2年生29名、新潟市立上山中学校2年生4名、新潟市立加治川中学校2年生4名、新潟市立坂井輪中学校2年生17名、新潟市立潟東中学校2年生4名、新潟市立白井中学校1年生17名、新潟市立木戸中学校1年生22名・2年生11名・引率4名 [6月] 新潟市立木戸小学校6年生22名・引率7名、長岡市立江陽中学校4名 [7月] 新潟市立小針中学校2年生25名、会津若松市立第三中学校2年生4名、新潟市立小瀬小学校6年生21名・引率2名 [10月] 新潟市立亀田西中学校1年生5名、南魚沼市立城内小学校4年生30名・引率3名、新潟市立中之口中学校1年生10名、新潟市立猿橋中学校1年生24名、新潟市立下山中学校2年生5名、新潟市立小須戸小学校2年生42名・引率3名 [11月] 新潟市立新潟小学校5年生2名、新潟市立新津第二中学校1年生13名 [12月] NHK学園中越高等部13名・引率1名、NHK学園高等部18名・引率1名 [1月] 長岡市立上川西小学校5年生112名・引率8名、新潟大学教育学部4年生2名 計26校・団体(651人)</p>